

「日本庭園 有楽苑の四季について」

有楽苑の四季

多くの伝統芸術と同様、茶道においても季節は重要な要素である。茶会は季節の行事として行われることが多く、亭主によって、季節の要素を取り入れた飾り付けや茶道具の選択が行われる。それと同じように、日本庭園も一年を通じて四季の移り変わりの美しさを楽しめるように設計されている。有楽苑では、あんこのお菓子の色や満開の桜の木で季節を感じたりすることができる。

日本の伝統的な詩歌は、1 年を四季だけでなく 24 の期間に分け、それぞれに花やくだもの、鳥などその季節の特徴を表現している。例えば、梅やウグイスは早春の象徴であり、満月やススキは初秋の象徴である。茶会では、床の間に飾る掛け軸や生け花にその象徴が最も顕著に現れる。掛け軸は、季節のイメージを描いた絵画であったり、季節の行事にちなんだ書であったりする。生け花は、その時期を反映した花や植物を生ける。

有楽苑の「茶花園」は、一年を通じて茶花が咲いている特別な場所である。外苑の中でもひっそりとしたこの場所は、弘庵の東側にあり、木陰の道が石橋や滝とともに続いている。人工的な丘の上から水が流れ、風景に高低差を与えている。有楽の好きだった椿をはじめ、ハクウンボク、ロウバイ、シジミバナなどが植えられている。

茶会では、亭主や客が着る着物、茶碗の形や飾り、茶菓子に季節を感じることができる。有楽苑では、春はピンク、夏は緑、秋はオレンジ、冬は白の 4 色の縁取りが施されたお菓子が提供される。